



ごあいさつ

府中市長
小野 申人

府中市では「平成30年7月豪雨」により、災害関連死を含めて3名の尊い命が失われました。改めて犠牲となられた方のご冥福をお祈りしますとともに、ご家族の皆様にご心よりお悔やみを申し上げます。また、被災された多くの皆様にご心よりお見舞いを申し上げます。

平成30年7月5日から7日にかけて、本市での連続雨量は上下地区で351mm、府中地区で374mmに達しました。広範囲で被害が起き、住宅被害は全壊7件、半壊35件、床上浸水6世帯、床下浸水91世帯に及びました。公共土木施設の被害も道路69か所、河川33か所、橋梁1か所で起きました。これにより、県道府中上下線をはじめ、多くの道路が通行不能になり、JR福塩線の府中―塩町駅間も長期に渡って運休することとなり、市民生活に多大な影響を受けることとなりました。

こうした中、災害からの復旧と被災者支援に当たって、発災直後から、市民の皆様や自衛隊、消防、警察をはじめ、国や県、他の自治体などの関係機関、市内外のボランティアの皆様等から多くの御協力をいただきましたことに、深く感謝申し上げます。

本市では、「平成30年7月豪雨」を教訓に防災・減災対策を鋭意進めております。まず、専任の危機管理組織を立ち上げるとともに、ハード面では、緊急対策として可搬式排水ポンプ、大規模な内水浸水があったエリアに固定式大型排水ポンプを整備し、令和3年8月の豪雨では効果を上げることができました。更に大規模な内水浸水があったエリアでは、排水ポンプ場の新規整備に向けた取り組みを進めています。各家庭でもある程度浸水を防げるよう、止水板の導入や嵩上げの補助など自助の支援も行っております。県と連携しながら、土砂崩れ等への対策として砂防・治山事業にも取り組んでおります。ソフト面では、国交省や県、各地域の町内会等と連携しながら、マイ・タイムラインや避難の呼びかけ体制の構築など防災意識を深めるための試みを進めております。

その一方で、「平成30年7月豪雨」から4年近くが経ち、災害時のことも人々の記憶から薄れつつあります。この災害の被害状況や災害から得た教訓を次の世代へと受け継いでいくことを目的に、この度「府中市平成30年7月豪雨災害記録誌」を作成しました。

次に大きな災害が起こった時、災害対応に頑張ってもらえることになるのは若い市職員です。万一の折はこの記録誌を参考に、各自の持ち場での役割から一歩進めて、市民の目線を意識した災害対応をして欲しいと思います。

最後に、作成に当たって御協力を頂いた方々に感謝を申し上げますとともに、本誌が今後の災害対応の一助になればと願っております。